

セル画その 2

今回はセル画についての話を続けることといたします。

まずは前回(第 211 回)のおさらいです。アニメーションが何故動画と呼ばれるか、止まっている画像の連続なのに動いて見えるのはどうしてか、動画装置発達の歴史などでした。

今回は何故セル画という技法が生まれたのか、どのようなメリットがあったのかなどについて述べるとしましょう。

アニメ映画を一本作るためにはどれだけの枚数が必要になると思いますか。一秒が 24 コマですから、一分で 1440 枚、一時間ともなると 86400 枚という膨大なものになります。これだけの絵を描くのは大変です。アニメ映画初期の傑作と言われる「恐竜ガーター」(1914: アメリカ)、日本で最初の劇場公開版アニメ映画「芋川椋三玄関番の巻」(1917 年)、2007 年に偶然発見された「塙内名刀の巻」(同年)なども一枚一枚描いています。

このような大変な作業を簡略化するために考えられた技法がセル画です。この方式を簡単に説明しますと「背景を描いた紙の上に数枚のシートを重ね、動きのある部分のみを差し替えて撮影する手法」となります。

これですと今までは背景に至るまで総てを描いていたのを動くところだけになるわけですから格段に省略化できます。この手法を最初に用いたのは 1914 年 1 月、アメリカのジョン・ランドルフ・ブレイで、背景画をセルに描き動くキャラクターを紙に描きました。その後、同年の 12 月に同じくアメリカのアール・ハートがブレイとは逆に背景画を紙に、動くキャラクターはセルに描くという技法を考案してこちらが普及しました。

日本では大藤信郎が 1927 年に影絵アニメ「鯨」の一部で使用したのが最初です。大藤は後に前回で取り上げました政岡憲三とともに日本アニメ創世記の巨人として知られ、死後に大藤信郎賞が創設されましたが、受賞者を見てみると手塚治虫、久里洋二、川本喜八郎、虫プロ、ルパン三世カリオストロの城、はだしのゲン、天空の城ラピュタ、となりのトトロ、崖の上のポニョなどアニメ界の歴史に遺る人や作品ばかりです。

でセル画に話を戻しますと、戦前はセルが非常に高価であったために規模が小さい日本のスタジオでは導入できず、部分的な使用に限られました。

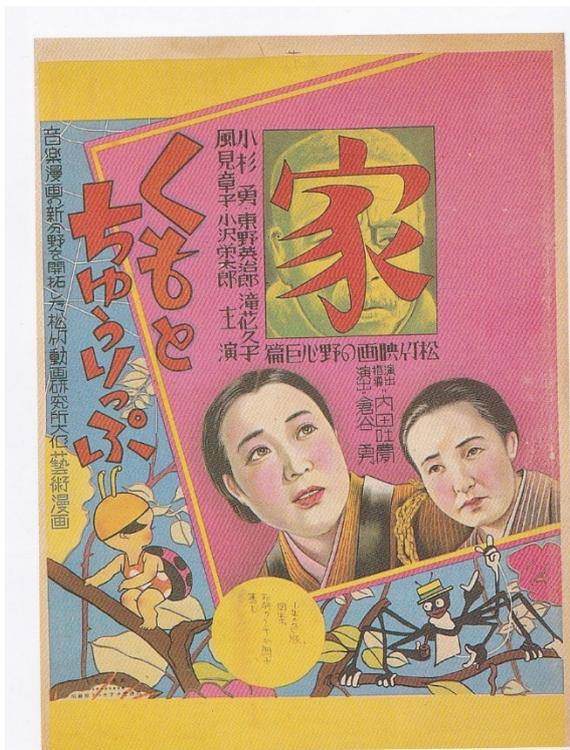
この高価であることに対する対策としてセル洗いという作業が行われていました。しかし洗浄による無数の傷がつく上に薬品のためにしわが出来るので再利用は三回くらいが限度でした。昔のアニメを見ると雨が降っているような黒い線が見えますが、これが再利用の証です。前回にも取り上げました「くもとちゅうりっぷ」も再利用作品だと分かります。

これに対して同年に公開された「桃太郎の海鷲」ではあまり見えません。というのは戦争プロパガンダ映画ですので豊富にセル画を提供してもらえたからです。この映画に出てくる鬼ヶ島は明らかにハワイオアフ島で、桃太郎を隊長とする機動部隊が鬼退治、すなわち空襲

を敢行して大戦果を挙げるという内容です。

一方、「くもとちゅうりっぷ」は、てんとう虫の女の子とクモの追いかけっこという叙情的な作品です。ところがこれさえも、てんとう虫の女の子が日本、悪役のクモが欧米などの外敵、嵐によっててんとう虫の女の子が救われる場面は神風が吹いたと解釈されています。

もっと凄いのが公開時の評価で、てんとう虫の女の子が白人、クモが当時の南洋の住民と解釈され、日本の味方である南洋の住民が可愛らしい白人をいじめるという内容であると言われて文部省の推薦を得られなかったのです。全く言いがかりと言って差し支えないとんでもないこじ付けで、これではアニメなど作れないですね。そのためか、今でこそ戦争中の作品でありながらほのぼのとした名作だと言われていますが、当時は大阪の一館のみで公開されたと伝えられています。



くもとちゅうりっぷ



桃太郎の海鷲

この「くもとちゅうりっぷ」は 16 分の作品ですが、2 万枚の動画を描いています。「桃太郎の海鷲」は 37 分、姉妹編で海軍陸戦隊落下傘部隊を描いた「桃太郎海の神兵」は 74 分という長編です。セル画の技法がなかったらとても作れなかったですね。どの作品も当時の主流であった切り絵アニメーションではなくて、セル画を使用したからこそその作品です。

一方、その頃アメリカでは数々の名作アニメで知られるディズニー、ポパイ、ベティブーブなどのフライシャースタジオ、バックス・バニーのワーナーブラザーズなどが数多くの名作を産み出しまさにアニメ黄金時代でした。

ところがここでもおかしな話があります。ヘイズ・コードという検閲制度が生まれたので

す。確かに暴力的なシーン、猥褻な場面などに対する規制なのですが、マレーネ・ディートリッヒの名作「嘆きの天使」が猥褻コードに引っかかったほどのものですから、ポパイが暴力的、ベティブープは猥褻的と言われました。

アメリカがアニメ黄金時代だったのは潤沢な資金でセル画を多様できたということが大きいのです。それに対して少ない製作費で頑張った日本アニメの活躍は特筆すべきですが、この少ない製作費の問題は戦後も延々と続きます。その辺りのことは次回として今回はここまでといたします。